



## ゲーム感覚で健康づくり

総領でニュースポーツ講習会・7/4

No.6

庄原市スポーツ推進委員協議会総領支部主催によるニュースポーツ講習会が、総領体育館で開催され、20人が参加しました。

今回は、ピンボウリング、輪投げ、バッコの3種目に挑戦。参加者はゲーム感覚で気軽に競技を楽しみながら、講習会を通じて、中学生から高齢者までが世代を越えて親睦を深めました。

市スポーツ推進委員協議会総領支部長の延清圭祐さんは「ニュースポーツを健康づくりや長く続けられるスポーツとして多くの人に親しんでもらいたい」と話していました。



▲輪投げに挑戦する参加者

## 思い出に残る高野の夏

福山の小学生が集団宿泊体験学習・8/18～21

No.8

福山市立南小学校の児童53人が、高野町で3泊4日の集団宿泊体験学習をしました。

初日は、ふるさと村高暮で夕食作りやキャンプファイヤーを体験し宿泊。2日目以降は3～5人の班ごとに分かれ、2日間にわたり町内の民家13軒にそれぞれ宿泊し、トマトの収穫作業などを体験しました。初日は緊張していた児童も2日目には家族のように打ち解け、別れの際には涙を流して、別れを惜しむ児童がたくさんいました。

5年生の藤井七瑠さんは「普段都会ではすることのない体験を、皆で協力しあってすることで、クラスの団結力が強まった」と話していました。



▲農家の方に食事の作り方を教わる児童たち

## 清流の畔でハワイアン気分

第6回鮎の里せせらぎコンサート・8/1

No.5

第6回鮎の里せせらぎコンサートが口和町の鮎の里公園で開催され、約120人が訪れました。

今回は広島県ハワイアン協会のガラシゲハクールウォーターと、地元フラダンスグループの口和エンジェルズがコラボレーション。ハワイアンを曲を中心に全20曲が演奏され、フラダンスがハワイアン気分を一層盛り上げました。

演奏者の山本繁生さんは「多くのお客さんに来てもらい、口和エンジェルズと一緒にコンサートができて、とても楽しかった。機会があればまた演奏させてください」と充実した表情を浮かべていました。



▲出演したガラシゲハクールウォーター(後列)と口和エンジェルズ(前列)

## 庄原の魅力の世界に伝える

ホームステイで国際交流・7/17～19

No.7

広島大学大学院国際協力研究科の留学生とその家族6カ国13人が、市内の家庭(ホストファミリー)を訪れ2泊3日のホームステイを行いました。

しょうば国際交流協会が主催するこの事業は、地域や文化を越えて庄原の魅力を伝え、国際的な交流を深めるものです。留学生は各家庭で日本料理を振る舞われたり、休日には市内外の観光地を巡るなどして日本文化に触れたりするなど、充実した日々を過ごしました。

お別れ会で留学生らは「ホストファミリーは家族のように接してくれてうれしかった。別れるのは寂しいが、今度は自分の国に会いに来てほしい」と話していました。



▲ゆかたを楽しむ留学生

## 豪華共演に酔いしれる

しょうばらしいともコンサート・7/26

No.2

市役所ロビーコンサート50回達成を記念した演奏会『しょうばらしいともコンサート』が、庄原市民会館で開催されました。

ロビーコンサート出演者を中心に4部門で構成され、庄原民謡「敦盛さん」、ピアノ三重奏、木管五重奏、オペラ「椿姫」ハイライト、オペラ「アイダ」から「凱旋の合唱」、ハワイアンとフラダンスなど、普段一緒に聴けない歌声と演奏が次々と会場に響きわたりました。

フィナーレは、サクソ奏者の佐野博美さん作詞作曲の「庄原いいとも音頭」を全員で合唱。多くの来場者は日常を忘れ特別な一日を楽しんでいました。



▲出演者全員で「庄原いいとも音頭」を合唱

## 学校活性化への期待を背に

西城紫水高射撃部初の全国大会出場・7/30

No.4

安芸太田町で行われた第53回全国高等学校ライフル競技選手権大会に西城紫水高校射撃部の河内幸紀さんが出場しました。

同高射撃部は、学校活性化の取り組みの一環で昨年度発足。発足して間がないものの、部員の努力と地域・関係者の支援によって初の全国大会出場を決めました。

河内さんは「自分よりも技術を持った選手に接する良い機会なので、多くを吸収していきたい」と意気込みを語り、試合に臨みました。結果は予選敗退と悔しいものでしたが、この経験が糧になり、今後より一層の飛躍が期待されます。



▲河内さんが出場したチームライフル少年女子立射40発競技の様子

## スポーツから人権を考える

人権スポーツ教室・7/24

No.1

三次地域人権啓発活動ネットワーク協議会が主催する人権スポーツ教室が庄原中学校で開催され、同校の男女バスケットボール部員46人が参加しました。

この教室は、子どもたちがプロスポーツ選手と交流を図り、感謝することの大切さや相手に対する思いやりなど人権への理解を深めることを目的に開催されたもので、プロバスケットボールチーム「広島ドラゴンフライズ」の岡崎修司選手と田中成也選手が、バスケットボールの基本動作など実技指導を行いました。その後、両選手は自らの体験も交えながらチームワークの大切さなどについて話し、部員たちは熱心に耳を傾けていました。



▲部員に実技指導をする岡崎選手

## 色々な葉っぱを学ぶ一日

吾妻山グリーンラリー・8/8

No.3

「葉っぱの日」に、毎年恒例イベント「吾妻山グリーンラリー」が行われ、約30人が参加しました。

まず、葉っぱについて知識をつけるための勉強会が比和自治振興センターで行われました。参加者は実物の木や葉っぱに触れ、葉脈や葉の切れ込みなどの見分け方の説明を受け、ラリーに備えました。そして、その後吾妻山へ移動し、ラリーを開始しようとしたまさにその時、雷鳴がとどろき、突然大雨が降り出しました。天候の回復が見込めないため、あえなく断念しました。

参加者は「楽しみにしていたのに残念。来年こそは天候に恵まれるといいな」と話していました。



▲葉っぱに触れながら説明を聞く参加者



## 「道の駅たかの」100万人達成！

記念セレモニー・8/7

No.10

「道の駅たかの」(平成25年4月12日開業)の来場者数が100万人を達成し、記念のセレモニーが行われました。

100万人目の来場者(レジ通過者)となったのは、家族5人で訪れた岡山市の村上和栄さんご家族。村上さんは「びっくりしました。初めて訪れましたが道の駅もきれいで、良い記念になりました。機会があればまた訪れたい」と喜んでいました。

駅長の根波裕治さんは「庄原産にとことんこだわり、さらなる魅力づくりを進め、これからも訪れたお客さまに楽しんでいただける道の駅を目指して努力していきたい」と話していました。



▲木山市長らが出席し、来場者100万人の達成を祝う

## 猛暑の中にひとときの涼

三楽荘でガラス展・7/24～8/9

No.9

7月24日から8月9日までの17日間、庄原市三楽荘で「陶津窯(とつがま)ガラス工房アトリエソラ 藤本匠紀 藤本奈々 ガラス展」が開催されました。

花瓶やグラスなど作品300点が展示され、約500人の来訪者がありました。

県外から訪れた人は「ガラスの透明感がとても涼しく、和の空間に映えている。外の暑さを忘れさせてくれる」と話していました。

藤本匠紀さんは「たくさんの人に来ていただき驚いた。また機会があれば、ぜひここで展示会を開きたい」と話していました。



▲ガラス作品が和室に映える

## カーブを通じて庄原市をPR

マツダスタジアムで「庄原デー」・7/26

No.11

プロ野球公式戦「広島東洋カーブ対読売ジャイアンツ」が行われた7月26日、マツダスタジアムで毎年恒例の「庄原デー」が行われました。

当日は、スタジアム内ライト側「かば広場」とレフト側「きくまる広場」に設けられたブースで出展したほか、来場者へ比婆牛の抽選プレゼント、庄原市のキャラクター「ヒバゴン」と「キョロやまくん」の登場など、ご当地グルメやマスコットを通じて、満員の観客に「庄原市」をPRしました。

また、11月1日(日)に庄原市民会館で開催される第16回庄原こどもミュージカル「アラビアン・ナイト」に出演する子どもたちが、元気いっぱいダンスと歌でPRしました。

庄原市カーブ応援隊の

山根英徳さんは「出展者は猛暑にもかかわらず庄原市のPRに努めてもらった。今後もカーブを通じて庄原市の認知度を上げ、観光や定住にもつなげていきたい」と話していました。



▲マツダスタジアムでも大人気の「ヒバゴン」と「キョロやまくん」